

# 遠賀川と人と

あおき せんじん  
**青木 宣人 氏**



## 遠賀川流域だより

第013号  
2010年3月

遠賀川で放流される鮭の稚魚の育ての親です。

学生のころ、サケが産卵のために2mの滝を上るのを見て感動した事がきっかけで現在、遠賀川流域で鮭の稚魚の放流活動をされています。

新潟県村上市にある三面川漁協から購入した鮭の「発眼卵」を毎年献鮭祭終了後に嘉麻市馬見にあるふ化・飼育場に持ち帰り、「ふ化槽」に入れます。3月の初めまで育てています。小さな命、大変気を使います。

嘉麻市立足白小学校の児童は14年ほど前から、青木さんのアドバイスを受けながら生徒たちによる鮭の卵のふ化・飼育を行っています。「小さくてかわいい卵、一匹も死なないように育てたい」と、毎年児童は一生懸命育てています。

命の大切さを学ぶ場です。鮭の稚魚が4cm〜7cmとなると、遠賀川の小中学校や住民の協力で流域各地で放流される。菜種梅雨で河川の流量が豊富な時期に外敵から身を守りながら、稚魚たちは海に出ていきます。「大事に育てて放流し、4年後遠賀川に遡上してきた鮭に再会するのが楽しみです」と青木さん。

また、「稚魚の飼育を通して生き物をちゃんと大人にすることの大変さを感じ取ってもらいたい」との思いから嘉麻市立宮野小学校でもヤマメのふ化・飼育方法を教えられており、実際に小学生が飼育

も行っていきます。



足白小学校の生徒へ稚魚の孵化についての説明を実施

どを刈り取る「下草刈り」や放置された人工林の手入れを行っています。

子供たちへの鮭の飼育を通して命の大切さ、ふるさとへの川の想いを育てる活動やきれいな川を取戻すとの熱い思いからの森林保全活動等に今後もご活躍頂きたいと思えます。

も行っています。

稚魚の放流活動のほかにも、一九八六年に「西日本アウトドア協会」を設立、キャンプや自然体験活動を通して子ども達に自然の中でのコミュニケーションの大切さを教えています。青木さんを頼って様々な人が集まっています。「森がなければきれいな水ができない。源流の水を守るために、荒廃した森林を復活させよう」と「遠賀川源流の森づくり推進会議」では、3月に県内各地からたくさんの方々が源流の森に集まりクヌギ・ケヤキなどの落葉広葉樹を植えて、夏に木々の成長を妨げる雑草な



卵の中には死んでいるものもあり、それをひとつひとつ丁寧に取り除くことで元気な稚魚が産まれるとのこと。ふ化率90%を目指している。



目尾小学校の児童とサケの稚魚放流活動(右に立っているのが青木さん)

# 第2回 遠賀川流域リーダーサミット

## 遠賀川水フォーラム・遠賀川の水環境を考える

平成22年1月17日(日)ユメニティのおがた(直方市)で国土交通省遠賀川河川事務所・NPO法人遠賀川流域住民の会の共催で「I LOVE遠賀川流域リーダーサミット 遠賀川フォーラム・遠賀川の水環境を考える」が開催され、流域住民や行政に携わる人々が多数参加し、流域住民の大切な遠賀川「命の水」について議論されました。

遠賀川は古代より今日でも流域で生活している私たちの「命の水」です。流域には22市町村、67万人が生活しています。そして北九州市をはじめとした流域市民の工業用水や水道水源となっています。この遠賀川がゴミや水質の悪化で泣いています。何とかしようと、22年前から流域住民が連携して、水質や水量の改善に日々頑張ってきており、現在では約83の団体が活動しています。

今年も7月の大雨で大量のゴミが芦屋海岸に流れつきました。このゴミの内訳は、生活系のゴミが約2割、自然系のゴミが8割です。10年前は約半々でした。生活系のゴミの減少は活動団体の清掃の成果だと言えますが、ペットボトルや缶類などの容器問題、自然系のゴミの減少に向けてどうするか、水質の向上をどうするか。課題が山積みです。

この問題解決には流域自治体が連携し、取り組まなければ解決しなれないと思われま。私たちの「命の水」が危険な状態にあることを認識し、一日も早い取り組みが必要と2008年に引き続き第2回「I LOVE遠賀川リーダー流域サミット」を開催しました。第一部では「遠賀川の活動事例発表」として、流域の小中学校の活動事例発表が行われました。



たくさん的一般参加者

## 第1部 遠賀川流域活動事例発表



嘉麻市立宮野小学校

遠賀川を守れプロジェクト  
ヤマメのふ化・飼育を通して  
命の尊さや自然環境を守る  
取り組みを報告



福智町立赤池中学校

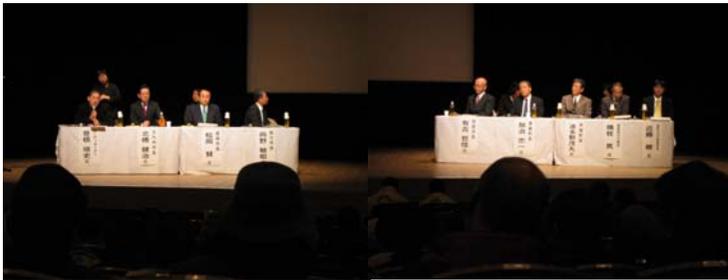
彦山川の河川体験学習  
地域住民と共に彦山川清掃  
や生徒たちのアイデアが取り  
入れられた河川整備の報告



北九州市立池田小学校

僕ら黒川探検隊  
黒川や「韓国とのほたる交流」  
を通して学んだことを報告

子ども達の遠賀川きれいにしていきたいという気持ちが参加した多くの大人たちに刺激を与えていたようです。



第2部では、流域首長代表の皆様にご登壇いただき、それぞれの立場から報告していただきました。  
コーディネーターを務められたI LOVE遠賀川実行委員長の曾根靖史氏は、「流域22市町村が環境美化に向けた流域自治体共通の条例制定が早急に必要」と提言し、会場から大きな拍手が送られました。

- コーディネーター I LOVE遠賀川実行委員長 曾根 靖史
- パネリスト 北橋 健治 北九州市長 松岡 賛 嘉麻市長  
向野 敏昭 直方市長 有吉 哲信 宮若市長  
加治 忠一 香春町長 波多野 茂丸 芦屋町長  
横枕 篤 福岡県河川課長 近藤 修 遠賀川河川事務所長

## 各パネリストの報告内容一部抜粋

**向野 直方市長**  
直方市は遠賀川の中下流域で川も汚れてきている。下水道の普及は遅れており、農業集落や合併浄化槽の取り組みを進めている。今年アユの生息も確認され、川がきれいになってきている。これからも魅力ある川となるよう環境美化に取り組んでいく。

**松岡 嘉麻市長**  
嘉麻市は合併浄化槽の普及率がまだ低い状況。遠賀川の源流の自治体として源流の森の整備を進めたい。子供達の自然体験を通して自然の素晴らしさを感じ取ってほしい。人材育成が大切だと感じている。

**北橋 北九州市長**  
笹尾川水辺の楽校、黒川のホテルの住みやすい川づくり等が実施されており、地域をあげて河川をきれいにする事で環境教育の場となっている。遠賀川は北九州市民の「命の水」。嘉麻市の源流の水源地森づくりにも参加している。ごみ減量に向けた取り組みを実施する必要がある。

**波多野 芦屋町長**  
11月には海が荒れて海底にたまってたゴミが海岸に漂着。これまで経験したことがない光景だった。洞山保存会の呼びかけで清掃活動を行ったが、限界もある。条例の制定や基金も考えていきたい。子供達の姿に感動した。子どもサミットの開催も考えてみたい。

**加治 香春町長**  
日本で初めての合併浄化槽(PFI事業)に取り組み、生活排水処理施設整備率が平成16年は11%だったのを平成21年には42%まで上昇した。金辺川のBODも2.4から1.6に改善されてきている。行政のトップが意識を高く持つ事が大切である。

**有吉 宮若市長**  
犬鳴川河川公園保全活動では182人が5つの部会で活動している。地域住民や企業が地域貢献の形で積極的に清掃活動等に参加して頂いている。地域が一体となった取り組みを進めていきたい。合併浄化槽の補助金の問題も考える必要がある。

**流域22の市町村が環境美化へ向け流域自治体共通の環境に関する取り決めの制定に向けて動き出す事を確認しました**

**近藤 遠賀川河川事務所長**  
遠賀川の水質は九州の直轄河川で4番目に悪い。このため「清流ルネッサンスII」を策定し総合的に取り組んでいる。ゴミの不法投棄も多く、処分費は約2千万/年かかっている。今後費用をかけずに河川管理を行う必要があり、地域の皆様にさらなるご協力をお願いしたい。

**横枕 福岡県河川課長**  
ふくおか川の大掃除を10月4日曜日呼びかけ、実施している。企業などが河川の除草・清掃や河川愛護団体の支援を行う場合も県が支援も実施可能である。遠賀川流域には支援している河川愛護団体が22団体あり、今後も呼びかけを行っていく。

## 会場の外にも流域活動状況の展示が行われました



犬鳴川流域おもしろ歴史マップ



ひこさんかわ夢の会河川清掃・稚魚放流活動状況



11月の洞山ゴミ清掃活動状況

# 遠賀川河口堰魚道改良ワークショップ

遠賀川河川事務所では、平成20年度から河口堰魚道改良事業に取り組んでいます。河口堰の魚道は水系全体にわたる魚類の遡上や降下の出入り口であり、遠賀川の魚介類の生息・生育環境の基点となる魚道です。本事業では、魚道機能の向上を図り、魚介類の多様性（サケの遡上など）の回復を図るとともに、環境教育の場としての利用を促進します。

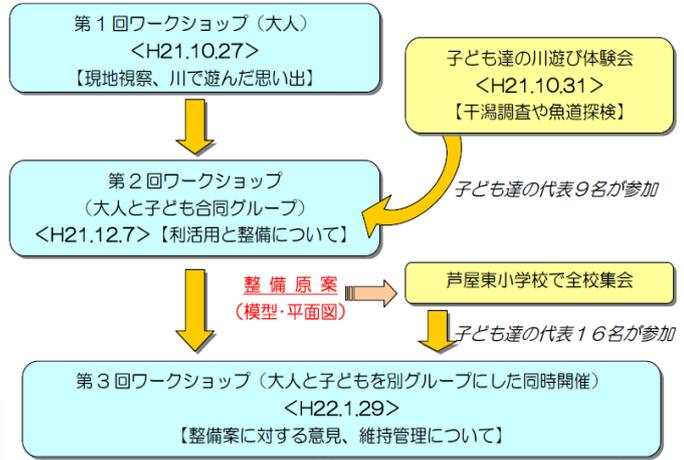
今年度は、詳細設計に向けて、将来の維持管理、利活用も含めた具体的な空間整備のご意見をいただくために、地元芦屋町の人たちと子どもたちによるワークショップ、川遊び体験などを開催しました。



現在の魚道



魚道改良後のイメージ



ワークショップには、大人たちにまじって、魚道に最も近い芦屋東小学校の4～6年生達が参加してくれました。大人たちに負けずに意見を発表したり、グループワークをしたりして、ユニークなワークショップになりました。

ワークショップの成果を、来年度以降の工事の具体的な整備に活かしていきます。



川遊び体験会



子どもグループワーク



子どもたちも意見発表



大人達も熱心に意見交換

## 飯塚市消防団、直方市消防団が九州地方整備局長表彰を受賞!

表彰式の後は意見交換会も開催され、現場や指揮系統の問題点や課題等活発な意見が交わされ、より迅速な水防活動のあり方について話し合いも行われました。

今後の活躍も大いに期待されます。

※筑豊地方では24日0時から26日24時までの3日間雨量が7月の平均降水量の2倍を超え、福岡県飯塚市では時間雨量が百ミリを超え、総降水量は568.0ミリという猛烈な雨が降った



平成22年3月2日(火)、遠賀川河川事務所において「水防功労者局長表彰」が行われました。

九州地方では、飯塚市消防団と直方市消防団2団体の受賞となりました。

この表彰の経緯は、昨年7月に中国地方や九州北部での「平成21年7月中国・九州北部豪雨※」時において、その大雨降りしきる中、昼夜を問わず、土嚢積みや木流し工法といった卓越された水防工法を駆使し、地域の洪水被害の軽減に尽力された功績が認められ、国土交通省九州地方整備局長から感謝状が送られたものです。

### 遠賀川流域だより

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

発行 国土交通省遠賀川河川事務所  
 住所 直方市溝堀1丁目1-1  
 電話 (0949) 22-1830  
 FAX (0949) 22-2859  
 HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会  
 電話 0948-22-3535  
<http://www.ongagawa.jp/>